

子供にとって魅力ある学校の創造

～児童生徒の声为学校を変える!「魅力ある学校づくりプロジェクト」～

地域の
特色ある
活動

1 はじめに

薩摩川内市は、平成16年に、1市4町4村が合併して誕生しました。鹿児島県の北西部に位置し、県内最大の規模を誇る川内川が市の中央部を東から西に悠々と流れ、ラムサール条約指定湿地に登録されている蘭牟田



甑島を一つに繋いだ甑大橋
(1533 m)

池、国定公園に指定されている甑島列島など、多種多様な魅力ある自然環境を有しています。

また、ユネスコの無形文化財に登録されている甑島のトシドン（大晦日に異形の神が民家を訪れる風習）や国の重要無形民俗文化財に指定されている東郷の文弥節人形浄瑠璃、入来の武家屋敷群など、歴史と伝統の魅力にも溢れています。中でも、国道3号線を交通規制して行われる川内大綱引は、420年以上の歴史があり、全国から観光客が訪れます。令和3年5月には、本イベントを題材にした映画「大綱引の恋」が全国公開され、注目を集めました。

2 薩摩川内市の目指す教育

本市には、令和4年5月1日現在で、小学校26校、中学校10校、義務教育学校1校があります。「ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる 薩摩川内のひとづくり」の実現に向けて、各学校で特色ある教育活動が開かれています。

そして、学校の課題解決のために、小中一貫教育や中学校区を単位としたコミュニティ・スクール制度、魅力ある学校づくりプロジェクトなど、新たな施策を積極的に導入

鹿児島県薩摩川内市教育委員会

してきました。

(1) 小中一貫教育

本市では、平成18年から、中1ギャップの解消や児童生徒の自己有用感の向上、教職員の資質向上などを目的として、市内全ての小・中・義務教育学校で小中一貫教育に取り組んでいます。義務教育9年間を、前期（小1～4）・中期（小5～中1）・後期（中2～中3）と捉えなおし、「ふるさとを愛する人づくり」を推進するために本市独自の「ふるさと・コミュニケーション科」を教育課程に位置付けるなど、連続性のある教育活動を行っています。

全市的な推進にあたっては、毎年行われる小中一貫教育研究公開などを通して、課題を踏まえた段階的な改善と成果の検証を行ってきました。現在は、中期1年目（小5）をミドルゴール、後期2年目（中3）をファイナルゴールと捉え、中期・後期を支え、「生きる力」の基盤を身に付ける前期の段階の指導に重点をおく取組を推進しています。



中学校教諭による小学校での授業

(2) コミュニティ・スクール制度の導入

本市では平成26年度から、小中一貫教育の枠組みを生かした中学校区単位のコミュニティ・スクール制度を段階的に導入し、令和2年度には全ての中学校区に学校運営協議会を設置しました。これにより、各中学校区の教育活動に地域の声が反映されやすくなり、小中一貫教育が充実してきています。

3 魅力ある学校づくりプロジェクト

これまでの取組から、学力向上やふるさと教育の推進には成果が見られました。しかし、全国的な課題である不登校児童生徒の増加は、本市においても喫緊の課題となっています。

そこで、令和4年度から国立教育政策研究所の委託事業「魅力ある学校づくり調査研究事業」に1中学校区を指定して取り組むとともに、全市的に「魅力ある学校づくりプロジェクト」をスタートさせました。

学校が児童生徒にとって魅力的な存在であれば、自然と学校に通いたくなるはずです。そのために「魅力ある学級」「魅力ある授業」「魅力ある人」「魅力ある地域」の四つの視点で、児童生徒の声（願い・考えなど）を踏まえた教育課程の改善を推進しています。



「魅力ある学校づくりプロジェクト」構想図

(1) 魅力ある学級（居場所づくり・絆づくり）

児童生徒が「学校に行きたい」と思うためには、学級が、児童生徒にとって安心・安全な場所であることが大切です。そこで、教職員が児童生徒の声を共感的に傾聴し、個に応じた言葉かけや支援を行うなどして、「居場所づくり」に取り組んでいます。また、学習活動や学校行事を児童生徒主体に改善し、児童生徒がお互いのつながりを実感する「絆づくり」を意図的に仕組むようにしています。

(2) 魅力ある授業（授業改善）

学校は、児童生徒にとって魅力的な学びの場でなければなりません。そのために、児童生徒から「今日の



タブレットを活用した思考の共有

授業はよく分かった」「できるようになった」などの声が聞かれるような、協働的な学び、対話的な学びの実現に取り組んでいます。例えば、児童生徒が対話を通して思考を深める学習や、タブレットなどのICT機器を活用する学習を積極的に取り入れています。そして、教育委員による授業参観を通して改善点をフィードバックしています。

(3) 魅力ある人（教師の魅力）

児童生徒にとって魅力ある教師であるためには、教師が常に学び続け、指導力を向上させることが大切です。また、児童生徒との良好な関係性を維持・向上させるために、一人一人に共感的に関わり、児童生徒の自己肯定感を高めることも大切にしています。

(4) 魅力ある地域（地域の教育力の活用）

児童生徒を見守り、成長を促す役割は、学校だけが担っているわけではありません。コミュニティ・スクール制度を生かし、地域の方も大いに活用したいと考えています。学校では、「ふるさと・コミュニケーション科」で地域の歴史や文化を学んでいます。また、地域の文化祭で児童生徒の出番を作ったり、不登校児童生徒の居場所づくりのために地域活動への参加を促したりしている地域もあります。これらの活動は、児童生徒が、地域への理解と愛着を深める機会となっています。

(5) 評価と改善

「魅力ある学校づくりプロジェクト」充実の鍵は、児童生徒の声、保護者の声、地域の声、そして教職員の声を、学校経営にPDCAサイクルで反映させることです。そのために、「学校が楽しい」「みんなで何かをするのが楽しい」「授業がよくわかる」「授業に主体的に取り組んでいる」の4観点で学期ごとに児童生徒にアンケートを実施し、結果を踏まえて教育活動の改善を行います。

児童生徒の声で創り出す「魅力ある学校づくりプロジェクト」の取組で、各学校の魅力が存分に引き出され、本市の教育が更に充実するものと考えています。

教育長
藤田 芳昭

